

第七章 事務機械・文具・洋品の商況

一 事務機械の業績

すでにこの時期にはタイプライターやモンロー計算機の輸入は再開されていたが、その数は、既述の如く、到底顧客の需要を満たすことができなかった。しかも需要は増加する一方であったため、当社は黒沢商会、ドッドウェル商会等在京の事務機械取扱業者を糾合して事務能率機械輸入懇話会を設立、通産省の産業機械課・重工業課に事務機械割当量の増加を交渉した。

型	単	価	備	考
標準型二七吋	一三五、〇〇〇	円	二十六年入荷	
標準型十六吋	九三、〇〇〇		三十年 入荷	
標準型二一吋	一二〇、〇〇〇		三十年 入荷	
電動型十五吋	一七五、〇〇〇		二十六年入荷	
電動型十六吋	一九五、〇〇〇		三十年 入荷	
携帯用 A	四八、〇〇〇		二十六年入荷	

の機種及び価格をあげると上表のようである。

尚、価格は輸入原価の騰貴上已むを得ず変更、標準型十一吋は二十六年に比較して三十年には二六%余の上げ率で八万六千円となっている。

輸入量は、昭和二十五年に比べて可成り多くなっていたが、まだ需要数を充たすには足らなかった。銀行などでは一度に二〇



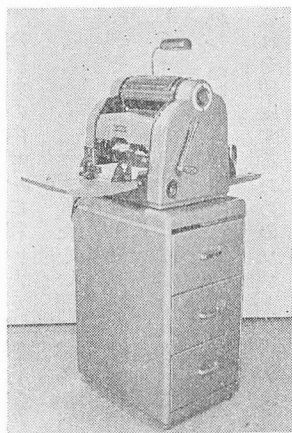
ローヤル・タイプライター社から贈られた牌

の販売員が数人並んでいたもので、もしや自分に対する内諾を変更されてはと不安を感じ、再び最後に並び、やっと買入れ仮契約を確定したというようなケースもあったという。

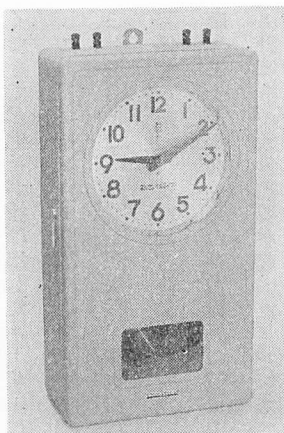
このようななかで、昭和二十九年一月、ローヤル・タイプライター社から、代理店として二十五年以上の協力を表彰する牌（たて）を贈与された。

昭和二十九年中のローヤルタイプライターの販売高は、各型合計七一八台、そのうち半数近くの三〇四台が本社、残りが支店・出張所の扱いであった。翌昭和三十年中の販売高は、各型合せて八一九台、そのうち、全体の半分強の四五四台が本社、残りの三六五台は支店・出張所で売った数である。

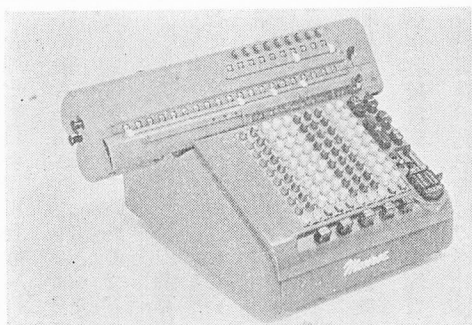
三〇台という纏った数の注文もあったけれども、ローヤルタイプライターの他にも、他社で輸入している外国製タイプライターが販売されていたから、全然販売競争がなかったわけではなく、だんだんと販売競争は激しくなってきた。これは、ある銀行での話であるが、当社の販売員に対してタイプライターを買いたいから店にくるようにといわれたので、社員が指定通りに行くと、すでに他社の販売員数名が来ていた。やっと自分の番になったので、彼は、ローヤルタイプライターの長所を説明、先方から買入れ決定の内諾を得たので、安心して席を立った。しかし、なお、他社



ゲステットナー



ベルタイマー



モンロー計算機

モンロー計算機も、昭和二十五年から輸入していたことは前述した。機種としては、モンロー LA シリーズ、同じく CST, CAA-10 の各型であった。しかし最初の輸入台数は少なかったため支店へ廻す余裕もなく、予約のお客さまから苦情が出た程であった。しかしこれも昭和二十六年の半ば頃から大量に入荷するようになった。

協和銀行の本店がまだ大門にあったころの話であるが、当社の社員がモンロー計算機を納めに行った。その時、一行員から、当時アメリカから日本の銀行業務視察に来ていた一米人が、日本人は大層器用にソロバンで計算をして居るが、このような計算方法は一九五五年（昭和三十年）まで保てないであろうと指摘してくれたので、同行では計算事務を研究するためにモンロー計算機を購求することになった、という話を聞いた。この話を聞いて、当社も大いに期するところがあった。協和銀行は、その後、新築な

った新丸の内ビルに移ったが、銀行業務にモンロー計算機を採用、業務刷新を率先して行った。

それから三年も経たない間に、各銀行では、合理化委員会、事務能率推進部を設けて事務の機械化を考えはじめた。そもそもモンロー計算機が、昭和二十五年に輸入再開された時には、すでに昭和二十四年に、フリーデン、マーチャント両社の計算機が輸入されており、宣伝も行き届いていたので、モンロー計算機の販売は苦しかった。しかしCAA-10型は $25 \times 35 \times 20^{(cm)}$ の小型でありながら、当時他の計算機にない連乗装置がついているうえに、それを使用するためのソフトウェアは、当社では終戦前に完成されていたので、複雑な保険業務の計算がたやすくできて、他社が投げ出したユーザーにまでくい込んで商売をした。

こうしてモンロー計算機は事務機械部の主要販売商品としてタイプライターの売行高を凌ぐようになった。昭和三十年頃までには、東海銀行、日本銀行、協和銀行、日本興業銀行、勸業銀行など、金融機関に大量に納入、官庁関係でも総理府統計局、農林省統計調査部、厚生省統計調査部、専売局などから多くの注文を受けた。その他では昭和二十七年頃からの企業復興の波にのって造船業界、光学機械、時計製造業界からも、タイプライター、モンロー計算機の大量需要が起った。レンズの設計で外国の技術に追いつくためにモンロー計算機が必要であることを、各光学機械会社で認められたのもこの頃であった。これはドイツのツァイス社の視察団が来日、日本光学を見学したとき、示唆されたためである。当社では、その使用法を各会社の担当社員に説明してモンロー計算機の売り拡めに努力し、日本光学、オリンパス光学、キャノン、小西六、アサヒ光学、理研光学、エルモ、その他の会社でモンロー計算機が採用された。

昭和二十五年第一回入荷以後昭和二十六年—三十年に輸入されたモンロー計算機の機種と価格は上表の通りである。

因にL型は戦前からの古い型で、次にC型が、昭和三十年半ばに、N型が最新型として入荷した。

ローヤルタイプライターの価格が、可成り頻繁に変動があったに反して、モンロー計算機の価格は、ここに記した五年間全く変化がなかった。

型	性	能	価 格
L-160	一六桁	手動ボーダブル	一三〇、〇〇〇円
L-200	二〇桁	手動ボーダブル	一六三、〇〇〇
L.A-7-200	二〇桁	自動除算装置付	二五五、〇〇〇
CS-10	二〇桁	自動除算装置付	二五二、〇〇〇
CST-10	二〇桁	自動除算装置付	二八〇、〇〇〇
CSA-10	二〇桁	自動乗除算装置付	三五六、〇〇〇
8N-213	二〇桁	自動乗除算装置付	四五〇、〇〇〇
6N-212	二〇桁	自動乗除算装置付	三七〇、〇〇〇
66N-213	二〇桁	全自動特装型	五七五、〇〇〇

ところでモンロー社の場合には、戦前からの勘定は当社の未払分と逆に当社が輸出していた品物の貸勘定になっている分があったが、サンフランシスコ条約の調印が済むと、同社から「戦前における債権は相互に消滅すべきである」との通知があった。

モンロー計算機の売行きを見ると、昭和二十九年では各型合計一七二台、そのうち会社関係が最も多く、次が

官庁、学校、銀行の順であった。とにかく昭和二十七—三十年にかけて、モンロー電動計算機は、日本の電動計算機販売高の五〇%を占める程の売行きであった。

その他に事務機械として販売を取扱った製品として、丸善精機工業株式会社の製品では、タイムレコーダーとベルタイマーが主で、その他には掛時計、オルゴールなども取扱った。

取扱商品のうち金額の大きい点では、モンロー計算機が筆頭で、つづいてはローヤルタイプライターであったから、これらの販売には昭和二十五年以前入社の新進中堅社員が当り、自社製品のベルタイマー、タイムレコーダーなどは昭和二十六年以後入社社員が当った。ベルタイマーは、東京及びその近県では新入社員でも一日一台の割合で販売していたが、その販路は、青梅（東京）、飯能、大宮（埼玉）、土浦（茨城）、千葉、秦野（神奈川）といったところであった。昭和三十年頃には従来取引のあった各地の取扱店を県代理店として代理店化の方向を取り、代理店のないところへは、従来通り本社直売の方法をとった。しかし地方支店での成績はなお充分とはいえなかった。そこで、本社から社員を派遣、販売指導を行ったことも再三であった。

その他に取扱った事務機械について記しておきたい。

戦前も当社で輸入販売していた英国のグステットナー高性能謄写機も、コーンズ商会の手を通じて、昭和二十六年頃から再び輸入された。電動と手動との二種類があるが、二万枚以上も印刷が出来、二色・三色刷も可能であった当時としては性能の秀れた謄写機として、機械部の主力商品となるほどの売上にはならなかったが、安定した売行を示していた。価格は、電動式（標準型キャビネット付）一六五、〇〇〇円、手動式（標準型キャビネット付）一二四、〇〇〇円であった。

この他後述のOSS扱いで、テレビ、電気洗濯機、掃除機、アイロン等が入荷、その販売を機械部で引き受けたが、時機が僅かに早かったこともあって、売れ行きはよくなかった。もしこれらの家庭電気製品の売込みに成功していたら機械部でも積極的に取扱ったかも知れぬ。

二 インキ

昭和二十四年一月三十日、矢代田工場閉鎖後、丸善のインキ製造は、専ら日暮里工場で行われた。そのために設備も積極的に改善したので、作業は漸く軌道に乗って来た。当時、世上にはなお粗悪なインキが氾濫していた折柄、いつまで経っても消えない良心的なインキ、タンニン鉄インキ（ブルーブラック）の宣伝の重要性を感じ、いろいろな方法で宣伝活動を行ったが、その一つとして全国各地の文具業界や修学旅行中の中学・高校生の日暮里工場見学希望に進んで応じ、非常に喜ばれていた。しかし後述のワンダーインキ製造が軌道に乗り出してからは、その製造過程について、なお業界に対し秘密を要する点もあったので、昭和三十年頃以後、見学を辞退することになった。また昭和二十八年九月にはインキ発売七十五周年記念販売、翌二十九年には創業八十五周年記念アテナインキ特売を春秋二回行うなど、積極的な販売活動を行った。

昭和三十年十一月、油性マーカーキングペン—丸善ワンダーインキを製造発売した。これは戦後（昭和二十一年）米国で開発された速乾性油性インキを用いたフェルトペンのことで、わが国では昭和二十七年「マジックインキ」の名で発売されていた。ワンダーインキは従来の筆記用具にくらべて利用範囲が広く、その売上高は急上昇して、筆記用インキの売上を凌ぐ程であった。

昭和三十年頃日暮里工場で製造していた種類は次のようである。

丸善ワンダーインキ 一本三〇円・五〇円（いずれもブルーブラック外七色）

三 文 具

概観して言えば、昭和二十六年頃からは、一般文具類のレベルの向上は著しく、品質、デザイン等の面ですぐれた製品が見られるようになった。そこで本社ビル第一期工事竣工にともない、戦後、品不足のため一時取扱っていた学童用文具類の取扱いをやめ、高級事務用品類を主体に取扱うことにした。なお、米軍からの注文によって事務合理化のための製品の研究が盛んになり、新しい事務システムに適合した商品の開発に積極的にとり組みはじめた。オリジナル製品としては便箋類（オリオン、アイデアル、インターナショナル、グローリー等）、封筒類（オリオン、マルゼン、スカイメール等）、ノート、手帳、帳簿類、日記、アドレス帳、各種のタイプ用箋類、レポート用紙、各型式のファイル類及び革製メモケース、ライティングケース等を開発したが、いずれも、品質、デザインの優れていることで好評を得た。また、丸善精機工業株式会社の製品であるパンチ、番号器、ステープラー、ブックエンド等も好評であった。

昭和二十七年十月、通産省は外国製日用品の輸入許可を発表したが、この販売は指定店に限られた。そこで当社では本店及び名古屋・大阪・福岡の三支店、丸ノ内・横浜両出張所が販売店舗の指定を受け、それによって昭和二十七年十月と二十八年三月に文具・洋品合わせて一七五、〇〇〇ドルの外貨割当を受けた。

それに先だって、OSS (Overseas Supply Store) によって申請していた文具品が昭和二十七年と翌年の二回にわたって入荷した（OSSについては洋品の項参照）。ここでは、このOSSによって入荷した文具・事務用品

とその仕入先を掲げておく。(なお、OSSによる輸入はこの二回だけであった。)

仕入先

Calmannod Co.
Dayton, Price & Co.
W. A. Sheaffer Pen Co.
Shirto Tr. Co.

A. D. Joslin MFG Co.

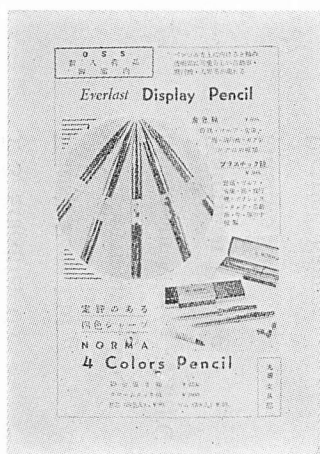
品目

ステープラー ワックス
エバラスト・シャープペンシル ノーマ・シャープペンシル
鉛筆 シェーファー万年筆
ボールペン バーカー万年筆 バーカー・シャープペンシル
ペン先
エクリプス・タイムスタンプ

Thomas De La Rue & Co.

オノト万年筆 鉛筆 レタ
ーセット トランプ 万年
筆部品 万年筆見本台
鉛筆
Frazar & Co.
American Trading Co.
Jensen-McLean Co.

接着剤
鉛筆 ステープラー ボー
ルペン スコッチテープ



OSS 輸入文具品広告

J. S. Staedler Co.

鉛筆 ペンシルホルダー 鉛筆削り

British Pens Ltd.

ペン先

L. D. Seymour & Co.

鉛筆削り 日付印 補強テープ パンチ

Minnesota Mining & MFG Co.

スコッチテープ

Waterman Pen Co.

ウォーターマン万年筆 ペン先 ボールペン 鉛筆

Mitsuwa Co.

ボールペン

Dietrich Reimer

地球儀

Kurt Müller

ペリカン万年筆

Cushman & Denison MFG Co.

フェルトペン インキ

Jacobson van den Berg & Co.

鉛筆削り

さらに戦前より下請工場として当社の耐火性ファイリングキャビネット等を製造していた佐藤金庫鋼鉄工業所が昭和二十八年末に当社の子会社となつてからは、耐火性金庫のほかスチール製品の開発を進め、次第に種類も増加した。昭和三十年の「学鑑」に広告した各種スチール製品は、耐熱書庫、耐熱ファイリングキャビネット、事務用机、ロッカー、図面整理引き出し等であつた。

一方当社は、昭和二十八年、学校図書館育成協力会を設け、子会社丸善製品販売株式会社の発案によりアテナインキ又はワンダーインキの上ブタ五〇〇個を一口千円とし、代りに代価千円の書籍又は図書館用品と交換した。こ

れは業者を対象としたものであったが、間接に学校図書館を援けることとなり、経済的に不自由であった小・中学校に歓迎された。

昭和二十六年～三十年の間、当社が設備あるいは書架等図書館用品を納入した小・中・高等学校の数は次の通りである。

校種	年	昭和二十六年	昭和二十七年	昭和二十八年	昭和二十九年	昭和三十年	計
小学校		五	一〇	二一	一五	一一	六二
中学校		二	三	一〇	七		二二
高等学校			四	六	五	二	一七
大学その他				二	四	四	一〇
計		七	一七	三九	三一	一七	一一一

右の中、設備一切を請負った学校数は、三十五校に上っている。

四 洋品販売漸く軌道に乗る

配給切符制による衣料品の供給は、昭和二十五年頃に順次に撤廃せられた。

形の上では、すでに昭和二十五年には衣料品は一応揃っていたが、質的な面では、なお充分でなかった。何か新しいオリジナルな商品と考へ、倉敷レイヨンの新製品合織ビニロンで肌着を作り、「ニュースロン」と名付け「毛よりも数倍強い」と広告し売り出したが、柔軟さと晒しがうまく上らないなどの欠点で、数年後には他の合成繊維にとって代わられた。その頃エジプト棉のスムース・メリヤスを発売したが、これは評判がよく現在に至っている。昭和二十六年七月には、「お仕立券付ワイシャツ」を中元進物用品として売り出した。これは当社の考案によるもので、価格も手ごろで大好評であったから、一、二年後他のデパートでもこの方式を採用するようになった。同時に、「お仕立券付洋服地」、「お仕立券付紳士靴」等も売り出した。

昭和二十七年にナイロンの紳士用靴下 (Wooly Nylon Socks) 二足五百円を、全く新しい品物であったため、「一カ月以内に万一裂けるようでしたら新品とお取換させて頂きます」というカードをつけて売ったことがあった。また、米国の帽子製造会社 Stetson が東京製帽株式会社に紳士向中折帽を製造させ、すべり革に小さく Made in Japan と印して売り出した。右のような場合は、外国から原材料のまま日本に輸入、日本で仕上げて本国のブランドで売出したものである。

当時、「バーバリーコート」を銀座で売っている店があるが、どうも不安で買えない。丸善でも早く輸入してほし

THE
BURBERRYS
Weather-proofs

直輸入に依る
英国バーベリー社製
レインコート

品付シグナツプデザイン
総売価 ¥19,500

WALKING BUREBERRY
CONVERTIBLE BUREBERRY
D. B. KELTID BUREBERRY
KIDING BUREBERRY
SHOOTING BUREBERRY
FISHING BUREBERRY
MOTORING BUREBERRY
AIR WASH or THERMOGRAPH
BUREBERRY FOR GOLF

丸襟のレインコート
¥19,500 以上品社
本社より直輸入



バーベリーコート入荷 (昭和28年)

O. S. S. 輸入品

LUX & RINSO 一年間保証
本製大洗剤の定しその
洗きあはれは最高です
LUX 洗剤 100g ¥100
RINSO 洗剤 100g ¥100

YARDLEY 一年間保証
本製大洗剤の定しその
洗きあはれは最高です
YARDLEY 洗剤 100g ¥100
YARDLEY 洗剤 100g ¥100

GIBBS 一年間保証
本製大洗剤の定しその
洗きあはれは最高です
GIBBS 洗剤 100g ¥100
GIBBS 洗剤 100g ¥100



OSS 輸入洋品雑貨広告

NEWLY OPENED
PARIS SHOP
3RD FLOOR, MARUZEN ON THE GINZA (SHIBUYASHI)
Operated By Zimmerman Trading Co.

Specializing:
COSMETICS (FULL IMPRESSIVE "COTY PARIS" LINE)
PIECE GOODS, LADIES' WEAR, NOVELTIES, ETC.
IMPORTED LIQUORS
Sales For Convertible Yen Only

パリスショップ開店広告

い、丸善なら高くても安心して買える」といって下さるお客様もあった。このような御注意をいただけるのも、永年培ってきた信用の賜と感謝したのであるが、当社には、昭和二十八年十月、OSSの扱い分としての洋品雑貨が入荷した時にバーベリーコートも戦後初めて入荷した。

昭和二十七年頃の広告を見ると、さすがに舶来品はないが、ずらりと洋品が並んでいて、ほぼ旧態を回復した感があつた。

昭和二十六年九月には、現在の本社ビルの第一期工事が完了し、三階に米人商社ジマーマン (Zimmermann) 経営のパリスショップ (Paris Shop) が開店した。米軍やシヴィリアンだけの店で、日本人は買うことは出来なかったが、

PXに出入り出来ぬ日本人にもコティの化粧品や、アメリカ人好みの婦人服がならんでいて、目を楽しませてくれた。

当社が舶来品愛好家の希望に應えるために、OSS経営申請書を通産省に提出したのは昭和二十五年一月十五日であった。この時には、すでに明治屋が、OSS指定店として、OSS商品を取扱っていたが、昭和二十四年十二月一日、OSS指定店を増やす旨の告示が出されたので、早速当社も申請をしたが、その資格はなかなか厳しいものであった。

しかも、なかなか調査は行われず、昭和二十七年、漸く、店舗設置の検査があつて設置が許可になった。東京では、三越、白木屋（現東急日本橋店）と当社とその他数店であった。そして、その第一回外貨割当を受けたのは、昭和二十七年十月から翌年三月までの分であり、続いて翌二十八年四月―九月分の割当があった。その額は三越、白木屋と殆んど同額であった。それに基づいて、当社が米・英・仏・西独・イタリアの五カ国からの輸入商品を申請した。

OSS経営の認可に、当社がいろいろと苦心したのは、昭和二十七年一月一日以前においては、この方法以外に邦人向けの洋品雑貨の輸入は不可能であつたからである。そして第一回申請書提出の前に、当社は明治三十年以後この時まで中止していた酒類販売を営業項目に加え、輸入酒の販売を復活した。

以上のようにOSSによる洋品輸入許可割当申請に尽力しているなかで、これまで在日民間外人にのみ解放されていたOSSは昭和二十七年七月一日から日本人顧客にも解放された。

ここでOSS輸入商品名を左に掲げておきたい。

仕入先

品目

(U. S. A.)

Jensen-McLean Co.

ラックス化粧石鹼 リンソサーフ粉石鹼 ペプソデント煉歯
磨 ラックスゴム湯タンボ シック社電気剃刀 ヒコック社カ
フス釘 タイ止め類 タロン社ファスナー ナイロンストッキ
ング

Colgate-Peet Co.

Dayton, Price & Co.

コルゲート社化粧石鹼 煉粉齒磨 タルク 紳士化粧品
コリノス煉齒磨 ハインドスキークリーム カティキュラメデ
イカルソープ マイラジョイ社婦人下着類 ガウンベルト カ
ールトネルロイ社紳士下着類 ダグラス社紳士靴 ボーマン社
レザージャケット ボスウィック社防虫薬 予防薬 ブラシ
櫛ギフトセット ナイロンストッキング

Procter & Gamble

L. D. Seymour & Co.

キャメイ化粧石鹼 アイボリー石鹼
ウィリアムス社シェービングクリーム アクアベルバ化粧水

The Amfil Co.

Rogan & Co.

Interwoven Stocking Co.

Freedman Hosiery Co.

Irving R. Boody & Co.

A Stein & Co.

A. G. Spalding & Bros.

MacGregor Golf Co.

Gillette Export Co.

American Trading Co.

Longines

Beerk Nut Packing Co.

International Exporters Co.

タルク 紳士用化粧品ギフトセット エバーレディー社シエー
ビングブラシ

ナイロンストッキング

ダンリバー社シャツ類

紳士用下着類 紳士用靴下

婦人下着 紳士用靴下

タオル類

バリー印ベルト ガーター類

ゴルフクラブ キャディーバック ゴルフ用品

ゴルフクラブ キャディーバック ゴルフ用品

バレー安全剃刀 替刃 シェービングクリーム ジレット安全

剃刀 替刃 シェービングクリーム

デュボン社ナイロン歯ブラシ 櫛

腕時計

チュウインガム

ナイロンストッキング アンソン社紳士用服飾品

B. V. D. Co.

Botany Mills Inc.

United Exporters Ltd.

Connell Bros. Co.

(United Kingdom)

Cornes & Co.

Unilever Export Co.

Dodwell & Co.

Burberry Ltd.

Nottingham Manuf. Co.

J. A. Buckingham & Co.

綿下着

スポーツシャツ

バックヘクト社婦人靴

タロン社フアスナー

ヤードレー社頭髪化粧品 化粧石鹼 紳士用化粧品 ジョンス

ン&ジョンソン社ベビー石鹼 ベビーオイル ベビーパウダー

ギップス固形齒磨 ヴォーグ社コンパクト 婦人用刺繍入ハン

カチ ドルシス紳士靴 デンツ紳士用皮手袋

ラックス化粧石鹼 粉石鹼

ピアー化粧石鹼 アトキンソン社香水 婦人用化粧品 ウィス

キーリカー ジン

レインコート レインハット

綿靴下

スカーフ パジャマ ガウン スポーツシャツ

Taylor & Gilbert Ltd.
American Trading Co.
Berrick Bros. Ltd.

A. G. Spalding & Bros.
Meltonian Ltd.

Singleton, Benda & Co.

Welch Margetson

L. Orlik Ltd.

Gillette Industries Ltd.

L. Rondon & Co.

MacGregor Caldebeck & Co.

White Favell Ltd.

Lipton

紳士・婦人用下着類 子供用ガウン

ナイロンストッキング

ベラン社皮・カシミヤ手袋 メリディアン社綿下着 デンツ社

レザージャケット

ゴルフクラブ キャディーバック ゴルフ用品

靴墨

チェルシー靴墨

旅行用化粧ケース スリッパ 紙入 弗入 鍵ケース マニユ

キアセット カフス釦 ステッキ

パイプ シガレットケース ライター

バレー安全剃刀セット 替刃 ジレット安全剃刀セット 替刃

皮砥 シェービングクリーム シェービングブラシ

ヘネシーブランデー

ウイスキー ベルモット リキュール類

スコッチウイスキー ジン

紅茶

Christy & Co.

A. Frankau & Co.

A. Dunhill

Loewe & Co.

The Parker Pipe Co.

スコットシルクハット

パイプ シガレットケース

パイプ 喫煙具類

パイプ

パイプ

(France)

Coty

Worth

Guerlain

Perrin Frères & Co.

Roger & Gallet

J. Menda

Maritime Thomas

A. & R. Barriere Frères

頭髮化粧品 香水 オードロン ローション

香水

香水

婦人皮手袋

化粧石鹼

ベルモード婦人帽子

洋酒類

ワイン

Casenier

洋酒類

Champane Mercier

洋酒類

Duhonnet

洋酒類

J. Hennessy & Co.

洋酒類

S. Tersi

洋酒類

(W. Germany)

Gottlieb Fr. Maier

ハンドバック 鍵ケース ライター 白粉入れ 香水瓶 弗入

紙入 写真立

Ferd Mulhens

フタオールドコロン 化粧石鹼

Georg Dralle

化粧石鹼

Johann Grodtmann

カロデルマ化粧石鹼

P. Beiersdorf & Co.

ニベアクリーム 石鹼 ペペコ歯磨

Kienzle Uhrenfabriken

置時計

Ludwig Krumm

皮製品 鉄

A. Bauermann & Co.

キーチェーン 爪切り ナイフ 替刃

J. A. Henckels Zwillingsswerk

グルン社安全剃刀用替刃

(Italy)

Martini & Rossi

ベルモット

Fattorie dei Marchesi

洋酒類

Francesco Cinzano

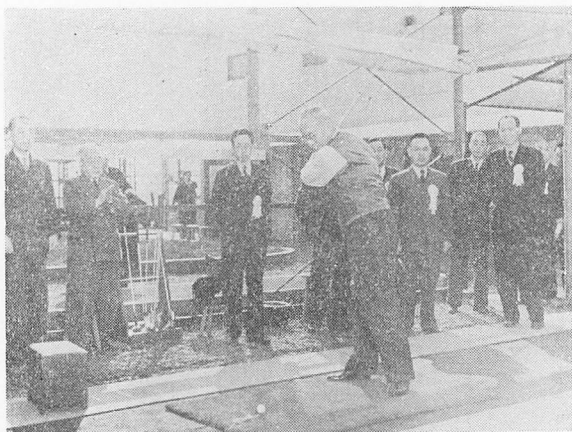
洋酒類

最後にゴルフ用品に触れておきたい。

第二次世界大戦前の当社は、運動用品では、テニス用品のほかに、代理店契約をしていた英国トムモリス社のゴルフクラブをはじめゴルフ用品を販売していた。

戦後、ことに講和条約締結後は、来日外国人も多く、ゴルフが次第に盛んになっていた。そうしたなかで、昭和二十七年五月に、多摩川の右岸登戸に新しく開かれた川崎国際カントリークラブのクラブハウスに、当社はゴルフ用品の売店を出した。これを手はじめに新川崎、東京クラブ、小金井、府中、江戸崎（茨城）、小山、赤羽、成田の各ゴルフ場にも売店を開いた。しかしまだOSSの商品を取扱えない時期でゴルフクラブは扱えなかったが、国産のブリジストンボール、ゴルフキャップ、アンダーウェアなどを売った。

OSSの外貨割当を受けた時には、司社長がさきに欧米視察の際米国スバルディング社を訪問、同社製品の代理



ゴルフファース・センター開場式

店契約を約束していた関係で、同社のゴルフクラブを注文、昭和十八年には相当量入荷した。社内では時期尚早として心配したむきもあったが、その心配は無用なほど、ゴルフはひろまっていた。

そこで昭和二十九年三月には、本社の屋上全部を使用したゴルフファース・センターを開設、永井弥惣兵衛取締役を担当責任者としてその運営に当らせた。その頃は、まだ都心には広いゴルフ練習場は、殆んどなかった上に、丸善ゴルフファース・センターは、大きなグリーンを設けバッティングの練習もできるというので好評であった。そして日本のゴルフ界の最高の機関である日本ゴルフ協会が、本社九階の一室を本拠としたため、ゴルフ界における当社の評判は大層よかった。

また、当社のゴルフファース・センターでは、設備の他に左のような斯界の重鎮が相談役として、揃っていたことも好評の一つであった。

日本ゴルフ協合理事長

日本ゴルフ協会常務理事

石井光次郎

小寺 酉二

小金井カントリー倶楽部理事長 立川直三郎

東京ゴルフ倶楽部理事長 野村 駿吉

相模カントリー倶楽部理事長 迫 静二

川崎国際カントリー倶楽部理事長 平山 孝

東雲ゴルフクラブ理事長 松井 春生

同時に実技の指導者として、人気と実力のあるプロゴルファー、棚網良平、栗原甲子男、林由郎等七人が各曜日を分担、指導に当った。

五 贈答品の品目と価格

昭和二十六～三十年の中元・歳暮の贈答品を通じて、この五年間の洋品・雑貨の売行状況を略記しておき度い。一般的に言って、五〇〇円～千円前後の値段の品物が、よく売れた。

その一方で、五千円～一万円という当時としては高価な品物が売れたのは、朝鮮動乱による好景気が反映したためであった。

この時期の特徴として、戦中・戦後の衣料品不足から、純綿・純毛製品に対する要求が強く、純綿のベンテックス肌着（上下組千円）、ラクダ毛メリヤスシャツ（上下組三千円―五千円）、丸善オリジナル特織（七子織）シート（千円）、丸善オリジナル毛布（三千円）等の品物が贈答品として喜ばれた。

この他に、前述したお仕立券付ワイシャツ生地（千円〜三千円）、子会社丸善化工製品のベールラム・セット（三〇〇円）、香水ゴヤ（三〇〇円）、アテナ石鹼（三個入三〇〇円）等があった。（アテナ石鹼は、最高の油脂を天然香料とした石鹼として多くの方々に愛用された。）

ナイロン靴下（一足 七〇〇円）はこの当時珍しいこともあって贈答品としてよく売れた。

昭和三十年近くなつて、輸入品が店頭にも並べられるようになると、ラクダカーディガン（五千円〜一万円）、英国製ガウン（一万円〜）が贈答品として売れ出した。